

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202197		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家 広田		
所在地	長崎県佐世保市広田3丁目9番1号		
自己評価作成日	令和3年12月8日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や外食、日々の散歩等施設の外へ出かけることにより、地域との繋がりを保ち、張りのある生活を送れるよう援助している。 ・スタッフの学びたいという気持ちを大事にして、研修・受験にかかる費用を補助している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、陽当りの良い平坦地に建ち、近くに24時間オープンなスーパーマーケットや公園、病院など徒歩で行ける便利な住宅地の中にある。理念の「夕暮れ時にも輝く人生」と、生活標語の「安心、ゆっくり、自分らしく」を掲げ、家庭的で温かい人間関係の中で暮らせる支援に努めている。新型コロナ禍の中でも感染状況を考慮しながら、短大生、高校生、中学生の実習や職場体験、見学など受け入れ、その中で実際に進路を介護福祉に決めた学生もいる。また、利用者の今の思いを大切に、できることはすぐ実践に繋げる対応が見える。食事面では、職員手作りの野菜を多く採り入れた彩りも味も良い献立は、利用者の楽しみである。他の利用者の分まで、配膳、下膳を手伝う様子も覗え、新聞やチラシを眺めたり、テレビ鑑賞など自由に過ごせる普通の暮らしが確認でき、利用者の幸せな毎日がみえる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の目につく所に掲示しており、運営理念を意識しケアをしている	年度目標の「今の言葉、あなたが言われたらどう思いますか」「入居者が主役、スタッフは脇役です」「行動、目配り、気配り、心配り」を管理者と職員が毎日の朝礼で復唱し、理念の意義を共有しながら実践に繋げている。起床や食事時間を柔軟に対応しており、理念の具現化がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会からの回覧板で地域の出来事を共有している 近隣の高校の福祉科の生徒を受け入れている	自治会の役員も担い、回覧板を利用者と一緒に持参し住民と挨拶を交わしている。自治会長、民生委員からも情報を得ている。短大生、高校生、中学生の実習、職場体験、見学など受け入れたり、近隣の学校の体育祭や地区の祭りなどの案内もあり、地域に浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣への散歩を通じ、日々の会話を交わすことで認知症の方に対し理解して頂けるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対応の為文書にて発信し、要望・意見があれば取り入れる様にしている	年6回、現在は書面会議である。規定の参加者に入居者情報、活動報告、事故報告、新型コロナ対策など記載された書面を発信している。参加者の要望や意見があれば、運営に反映することになっているが、意見、要望、質問など書面に記載がない。	新型コロナ以前の対面会議では、活発な意見交換など交わされており、書面会議であっても、参加者の意見等を収集できるような工夫で、双方向の意見を更なるサービス向上に活かす取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取っている 生活保護の方がいるので、保護課とは初受診の時スムーズにできる様に連絡を取っている	介護保険の申請や変更手続きには、支所の窓口に出向き、相談や質問等はメールやFAXで行っている。保健所のコロナ対策の研修は、感染委員会がWebで受講し、職員全員で共有している。福祉事務所や包括支援センターとも相談や情報交換を行い、協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束の研修を受けている 動画サービス、レポート提出、ミーティングでの勉強会で全職員が理解している	身体拘束防止委員会があり、年2回の研修を実施し、動画サービスの講座を各自受講することもある。毎年、事例検討会で日頃の支援の振り返りを行い、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみである。職員は言葉での拘束にも気配りし、職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心となり、標語を作り毎日唱和することで日々の意識付けを行っている		

グループホーム希望の家広田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加する事が出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い、理解納得をして頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者同士の会話を取り入れ改善できるよう努めている	事業所のホームページに、家族専用サイトを設け利用者の様子を掲載している。また、2ヶ月毎に個別に担当職員が本人の体調等を書いた便りを送っている。新型コロナ禍で面会を中断しているが、遠方の家族からの要望で、事業所の外から本人の様子を見られるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフミーティングで職員の意見を聞く機会を設けている	毎朝の朝礼や月に一度の職員会議は、職員が意見を出しやすい機会となっている。代表は、職員が表出した意見は、トライ＆エラーの姿勢で取り組んでおり、これまでに勤務シフトの業務を改善している。また、資格取得の受験費用や資格登録料等を補助し、働きやすい職場となるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた社外研修に参加する事で、スキルアップできるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、佐世保地区東部ブロック会議の勉強会に参加していたが、今年度はコロナにより交流の機会がなかった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを取りケアプランに反映するようにしている 傾聴する事、職員間の情報共有で改善できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き、希望に沿うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に一番必要としていることを見極め、入居時期や退院時期など一緒に考慮し、早く入居できるように関係者と相談している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや洗濯物たたみ、料理など職員と共に共同作業を行うことで関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナにより面会が出来なくなり、施設だよりで日々の生活を報告している 電話があれば対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや自宅への一時帰宅をしている	以前は毎月家族が訪れていたが、現在は面会を中断している。利用者の家族に会いたいという希望には、家族に電話を掛けたり、LINEを活用し本人の様子を写真や動画で家族に送るなど支援している。また、本人の希望に沿って、自宅の様子を見に車で出掛けており、制限がある中でもできる限りの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	夕方皆で体操する機会を設けたり、玄関先で外気浴をするなど、自分にできる役割を持つことで互いに支え合い助け合う支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になればこちらからは積極的に関係を築いていないが、本人・家族の相談があれば支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞いてケアプランに反映している 希望に沿えない場合はその方の思いをくみ取り、反映するように努めている	職員は利用者と1対1でゆっくりと過ごす時間を確保し、会話している。起床時や入浴時等、更衣は本人が衣服を選択し着用するよう支援している。また、希望に沿って牛乳の宅配を利用したり、新聞を購読する等、本人の暮らし方を尊重し意向を反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族やサマリーを通じて情報を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、日々の生活、バイタル測定で心身状態を把握している 職員間で情報の共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族から要望を聞き取り、介護計画を作成している	担当職員が主となり、本人・家族の要望を聞き取り、ニーズから課題を見つけ、介護計画へ反映している。見直し時期があるが、入退院時や生活記録表の状況変化で、すぐに見直しを行っている。医師の指示も反映し具体的な介護計画となっており、作成後、本人、家族の同意を得て支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表への記入やミーティング等で、気づきや結果を話し合うことで見直しを行い、現状に応じた介護計画を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズにあった柔軟な支援ができるよう取り組んでいる		

グループホーム希望の家広田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、民生委員が運営推進会議に出席されて際には情報交換を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡を密に行い、状況によっては看護師やスタッフが家族に同行し支援を行っている	月1回、かかりつけ医の往診があり、看護職員の配置もある。夜間急変時は主治医に連絡し、適切な医療受診を支援している。以前からの専門科の受診は職員が同行しおり、往診時の変化や職員対応の受診結果は、家族等へ連絡し情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきを記録し、特変時には看護師へその都度相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師、ソーシャルワーカーとの情報交換を行い、スムーズな入退院が出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者・家族・主治医・看護師と話し合い方針を決めている 看取りの為の研修を行い職員で情報共有する	重度化した場合の指針と看取り指針を明文化し、利用開始時に説明して、家族等の同意を得ている。状態によって家族、職員がかかりつけ医の説明を受け、新たに同意書を得ている。職員の心構えやケアの振り返りなど、ミーティングで話し合い、看取りに取り組む体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナにより研修が出来ていない。今年度は個々で学び、スキルアップしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は年3回行い、夜間を想定した訓練は1回行っている 備蓄品も水・米・インスタント食品・カセットコンロ・電池等備えている 防災に関するハザードマップもある。	昼夜想定避難訓練を3回行い、職員が2階の利用者役となって課題を見つけ検討している。食料や飲料水等の備蓄もある。近隣住民に災害時の協力依頼も行っている。現在、自然災害のマニュアルはあるが、事業所の状況に応じた防災マニュアル見直しを検討している。	利用者の安全と、災害時の混乱を避けるため、避難所での本人確認のための工夫及び、事業所独自の防災マニュアルの整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を保つ為に毎朝唱和を行い、意識できる様に職員一同が努めている	事業所は、利用者の人格を尊重した支援を基本としている。職員は、利用者を苗字にさん付けで呼んでいる他、トイレ介助は本人の羞恥心に配慮し、声掛けしながら安心できるよう支援している。入浴時の脱衣も同様に配慮しており、本人の思いに寄り添いながら支援に努めている。職員は、守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や要望を聞き取れるようにし、コロナ対応中だができる範囲で買い物支援や外出支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を叶えられるように、時間を考えその方のペースで支援ができるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人にその日着用する服を選んでいただき、要望があれば化粧品も購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用したり、家庭菜園で野菜を収穫し会話することで、食事を楽しんでいただいている	食事は、職員の手作りである。徒歩圏内にスーパーマーケットがあり、足りない食材は職員が利用者を誘って、一緒に買い物している。正月はおせちや雑煮で祝う他、野菜を多く取り入れ彩りも味も良い献立は、利用者の楽しみとなっている。他の利用者の分まで、配膳、下膳を手伝う様子も覗える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜・肉・海藻・大豆食品を中心に栄養バランスを考え、水分摂取量を記録し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシやスポンジで口腔ケアを行っている		

グループホーム希望の家広田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日中はトイレでの排泄を支援している	個人記録の排泄チェック表に記録しながら、時間を見て声掛けし誘導している。職員は可能な限りトイレでの排泄を支援しており、夜間ポータブルトイレを利用した際は都度洗浄している。パッドは職員間で現状を確認し適切なサイズとなるよう検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多くとるようにし、水分量もチェックしている 個人の希望で飲むヨーグルトなど飲んでいただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って支援できるように努めている 排泄失禁の場合は、その都度入浴を行っている	事業所は、基本的に週2回の入浴を支援している。車椅子の利用者は足浴しながら、シャワーチェアを利用している。入浴拒否の場合は、時間を置いて声掛けしているが無理強いせずに翌日に廻すこともある。好みの化粧水やボディローション等を使用する利用者もあり、職員がサポートしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後に午睡の時間があるが一人一人の習慣に応じた対応をしている また、休息が必要な方には状態を見て支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、連絡帳に記入し情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が出来ることで支援している 役割を持って生活ができるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞きながら散歩やドライブを行っている 今年度はコロナの思うような外出支援が出来ていない	新型コロナ禍であるが、弁当を作って桜の花見に出掛けたり、川沿いを散歩して鮎を見るなど、戸外で季節を感じることをできるよう支援している。車椅子の利用者も一緒に近くの公園に出掛けている。ドライブの希望は、日程調整し叶えており、利用者が閉塞感なく、生活できるよう支援していることは特長である。	

グループホーム希望の家広田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物はご本人が買い物に行き購入して頂くよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族や親しい人に電話を掛けたりできる様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく生活して頂けるように、室内の温度・湿度に気を配っている 季節ごとに行事の飾り付けを行っている	明るく生活感のあるリビングは、掃除も行き届き換気や室温など適切に管理している。テレビ鑑賞等、利用者がゆっくり好きなように過ごす様子が覗える。昼食前には、ラジオ体操で身体を動かし、調理の匂いが食欲増進に繋がっている。庭の花や菜園の野菜から、季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先へベンチを設置しており、日光浴、外気浴で会話も弾まれている。リビングの方へもソファにてくつろげる共用空間を設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やプレゼントの花、ぬいぐるみ等を飾り居心地のよい居室作りを心掛けている	居室は、フローリングでベッドと整理ダンス、押し入れの設置がある。自宅から小物類やテレビ、ラジオなど持ち込み、壁には家族の写真、見やすい大きな時計、温度計など掛けている。ベッドに置かれた猫や犬のクッションは個性的であり、職員が消毒、換気や掃除を行い、清潔を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の出入口に表札を飾り、自立した生活ができるようにしている また、手すりをつけ安全面にも考慮している		